

甲號
共三冊

日清事件

二十七年

早稲田大学図書館

文書27

B 59

1

朝鮮之變亂其源何由在

金玉均、甲申後我國來

勝海舟曰紀州、僧某伴來ル

金玉均、清國行テ禍ヲ罹ルヤ紀州ノ人岡本柳之助彼ノ屍骸ヲ迎テ行キタリト岡本氏何人ニシテ金玉均縁々ヤ

明治十年ノ役岡本紀州出身ニシテ軍功アリ其軍費ノ公一平ララセラ恨ミ十年八月竹橋近衛兵ノ暴動際ニ免職ニ相成リシ人ニアラスヤサテ金ノ屍骸ハ者國ヨリ軍艦ニテ朝鮮ヘ送り其屍骸ハ正殿刑ヲ加

ヘタレ岡本日本へ帰り真朝鮮、行キ東洋黨
ニカハリクリト、説アリ

大井憲太郎ト謂フ人、紀州ノ籍、カハリタ人、
此人モ朝鮮破壊主義、我ノ人ト謂リ此人モ國奉
等、同臭味ノ人ナリ三浦安ナモ竹橋以來國奉
等ノ交際アリシコシ

此木四郎、會津ノ人ニテ谷千城ノ一味ナリ朝鮮
ノ事ハ躍起組ナリ
大石正巳ハ土佐ノ人ニテ後藤ノキ光ナリ朝鮮

昨斗今頃防殺事件ニテ喧辛事アリ目鏡
ヲ懸テ國王ヲ過見シ

朝鮮東家書

韓曆四月廿九日(我背二十日)東使二万餘
雲光郡(仁)城中入、軍器庫、破、所蔵
兵器、抄、掠奪、仁、解、入、文、簿、出、之、書、人
中、校、富家、押、入、金、錢、穀、馬、正、奪、取、所、宇、城
統、長、黃、島、基、中、途、銃、射、而、米、轉、運、使、各
ヲ、提、ヘ、テ、之、詔、利、其、一、人、金、德、宗、ヲ、殺、害、シ、ケ、ル、招、討
使、ハ、之、ヲ、討、シ、カ、ル、雲、光、向、テ、進、者、ヤ、東、使、ハ、巧、之、ヲ、降、
鋒、ハ、突、ハ、轉、シ、興、德、ハ、是、ヲ、招、討、使、引、込、テ、興、德、向、ヒ、見
東、使、又、之、ヲ、降、テ、悉、ク、咸、平、ハ、入、リ、其、之、隊、別、羅、州、犯、シ、

シトスん摸樣アリケレハ貴州に於て人々傳へる之ヲ招河使ハ輕ク
東後長城の向テ去リ曰ク我徒ハ大義名分ヲ明シテ死
す事一掃セシムルニ志アリ愈々盛ニ相成リ其初ヨリ
経計數千人ト上リ其初三十七(五月三十日)京軍初
東徒上後我レ一隊ノ兵敗テ官軍亦斗墮死シ辛
死傷三百餘名漸ク官軍退縮東徒大吶喊天地ヲ撼
金邊子ノ省府金ノ陷落シ東徒ノ年々此敗數
東成ノ道ニヤ政府震駭迄大軍ヲ多シ更ニ援兵
平壤兵五百名ヲ派シ且忠信子ヲ新任兵使シ即日出兵命
下

五月二十六日袁公使世凱使臺派駁校洞第義
五月二十七日袁公使世凱使臺派駁校洞第義
官軍兵士戰死者二百名
五月三十日
全州完營五月三十日
陷落ス

六月一日
清國政府本邦政府知照上朝鮮兵士
三衛兵一々送リ金ノ朝鮮政府より援兵
ヲ求メラシムル依ルニ非ス其兵士ハ牙
山より上陸シテ真全州向テ東學黨ガ平
チハ天津條約依リ直ニ撤去シ京城ニ入ラシメズ

全州留防もセシメタル其旨ヲ諒セリシヲ
有本鴻章伯ヨリ在天津ノ本邦領事ヲ經テ
我政府ヘ申シ来リシヨシ

六月廿日

巡撫使李允曾氏全州防兵ノ報ニ據リ
京軍一千餘砲兵百六十人ヲ率ニ戦地ヘ向ヒリ
當年セシ方駐漢人中活潑ニシテ勇氣充
ナリ

三日

京城茂ニ東京或ル方ヘ達シ電報ヲ如シ

官軍又全州殲滅大敗シ副將以下死ス者二百人

東字黨ハ既ニ忠清道洪州ノ石城(京城ヲ距ル陸路ニ
二十里)ヨリ

占據シ將ニ京城ニ進シタル由リ韓廷ハ美々泰

時事新報速ニ出スベシト云フ是ヲ掲テ曰ク近頃ニ
東字黨ノ於テハ益々其勢ヲ盛ニシテ山嶺ノ際
ノ故政府根拠甚クシテ其勢ヲ盛ニシテ山嶺ノ際
内亂ノ一因ナリ次第ニ因リテ日清西國ノ關係ト

テ東洋問題ヲ惹き起シ、結果、列國に可ラズ此
際大島公使ノ歸任ニ至リ、要スルハ外交略上ノ事ニテ
人民ノ味ヲ容ル可キコトヲ我輩ハ日清ノ關係ニ對シテ東洋問題
ハ目下ノ急トシテ彼國ニ在ル吾國人民ノ生命財產
ヲ保護セシムルヲ願フ而已、彼亂民ノ亂暴ハ日本人ニ對シテ
如何ニ危害ヲ加ヘ知ラズ、相當ノ實力ヲ用意シテ保護
手段ヲ取ラザルコトハ兵隊ノ及ぶハ天津條約モアルベキ
至極、唯人民保護ノ為ニテ他ニ校ム所モ、是非ス、即
政府、於テモ一應ノ通知ヲ得ルハ止メ、嫌忌ノ念モ
無ン可シト信スナリ

日清西政府、照會、日朝來天津、李鴻章
ト我政府ノ關係、電行、照會、中ナリ

六月四日朝鮮京城發、特電、白ク
市役官兵又全州礪山、敗レ、副將等死ス者二
百人、東軍忠清道洪州石城、據リ、京城、
何テ進シ、朝鮮政府、更ニ官兵五百ヲ發シ
泰安、衛路ヲ扼セシム、其續報、曰
官兵平壤、六百人、京城、三百九十人、唯
今南、向テ出發シナリ

今朝西卿大山、陟海軍相推、テ首相ヲ訪
シ、後西卿海軍外ニシテ將校、大山、官邸、會シ

解者のみ

大島公使、今リ、其任地より退る

五日大島公使、午前十一時新橋より車朝
鮮任地へを行、備横須賀より軍艦に乗リ
出立と云う

六日

朝鮮へ兵員を派遣する旨、我政府より
今夕通報せしむ

見事宅

六日午後八時上野著富田不出、東京
無事ナリと云う、今日英公使、葬式
あり、本邦保納改正、際痛々しき事あり

櫻田門より出、西方を謀本部、満院各室
窓戸點燈此本部創立以来未曾有、事
ナリ、不問と云う、知ル大島公使、昨昔軍艦
八重山、乗リ巡查ニ知ラ卒ニ朝鮮へ歸任ハト

此天津より東京に達する私報に據る
李伯威は日本人に對し爲す邦人擁護の鎮壓
を以て今度數千の軍隊を朝鮮に派遣する
明なることなり
此の明き據るより李伯威は此種果敢の豫言を空
論事實に確するに意を測るは派遣の軍
隊餘り過るを尋常の事と見て可なり

ハ日大に保頂

ハ日大に保頂の公認を得り
朝鮮國內に内亂蜂起し勢益々猖獗極
同國政府が能く之を鎮壓し得る狀況に
依り同國に在本邦公使館領事館及國民
保護を爲す軍隊を派遣す

○西國出兵の通知
第4我國政府は朝鮮國內に内亂が起るに當り國民
保護を以て之を以て遂に軍隊を派遣するに決し
○西國出兵の通知

支那政府より朝鮮國へ出兵する旨は此種我國政府
へ通知されり又我國政府は前項より出兵するに
就て直ちに支那政府に其趣を通知するなり

七日 全州回復 全州京城北ハ十四里

朝鮮招討軍昨日ハ開戦全勝ヲ得賊兵三百餘名ヲ屠殺シ其餘名捕獲斬殺シテ全州ヲ回復ス

八日

清國政府朝鮮ノ請ハ但シ援軍ヲ派遣シ旅順城ニ威海衛ノ兵ナキニ百名ヲ出度セシメ以テ午後一時漢口國南号ヲ牙山浦ニ到着ス

九日

大島公使本野外務省事務官ハ重山艦ニ所轄隊ヲ率ヒテ二十名ヲ其宿衛ニ仁川ニ着ス

十日

大島公使京城へいけ強雨

土旦昨夜日本軍艦金山港へ入港英米露軍艦も入港
遠江丸軍艦吉野丸泊送せし未明、宇品
港より出帆スル島

此日京城直上信沖、青兵集援事、早瀬流
駁、幹旋し由り黒海者多し殊、清兵も前後より
日兵も来援を見、清兵も来援し戒多し結果より
三軍海軍者益々昂り

十二日此日拂曉迄、港内仁川砲台列着せし我
陸軍より朝鮮人派遣せし日清旅團を六
日出発、兵員、第一先登より旅團長、陸軍
少将大島親昌より、混成旅團、第五師團、兵員
六中、シ以テ但微しモナリ

京城発、電報、十午午後

日本兵、十午、仁川港、上陸、一隊、同港、留
也、明日入京、其駐在所、日本公使館附近
鑄洞筆洞、及生民坊、以テ之、先テ大島旅
團長、其他將校、當方公使館内、止宿、都右

仁川別報

仁川別動
士百上陸せし日本兵二軍、~~分~~一軍仁川在留、
本邦人民保護、為同地留一軍、真京城、
向ヲ進軍シ公使館護衛、及在留人民保護、
備

朝鮮破泊中、旱軍盤死九仁

常備艦隊

松島 海防艦 吉野 大和 武藏 高城 千代田

飛龍 (以老艘)
 三洋艦
 赤城島海
 砲艦
 八重山 (砲艦)
 五重山 (砲艦)

五言古詩
載下鳥公使

韓延之駭袁氏狼狽

馬韓公使大島公使仁川港到着海兵數百上警

京城入之、列陣京城、
靜迄、良俱、又方即

時領議正沈謙澤
右議政趙秉政
右議政鄭乾朝

此は題意傳着七集より密議を疑ふ一思ふに密に奴才

國政府
立憲
九年
九月
九日
九月
九日

禍
多
防
人
多

第一韓兵訴求韓廷に決議せしむるを表す

相當、罪、行、心、第、二、清、將、袁、世、凱、公、報、報、一、日、美

着の法兵と中匠と
撤ちて外河

策を以て其後兵を起し、
 經略大將に命じて
 討たせしむ。是より
 國の亂るはせんこと
 凡そ之り多し。
 次又擲筆して「予と
 袁世凱」と云ひ、
 世凱の名を

清國兵士既壞其初久て逢てある處今故郷

檣
 去るは其の流る日傍と國の兵士一所に駐在す
 とりハ衛尉之者ある也山凱自ら信に都々大鳥霞
 面告しる日共入来るとりて候とべし

ときよのちぎるるが
 思ひあうる間
 仁川に上着し
 一時非常な狼狽せし
 日本兵と拒んで大
 乗せしものうら良策なり
 思ひ
 韓世玉通即
 自負仁川より

送別より一と云ふ一と有強而長しうじ支那
 人の死を以強而日本兵に逆行せしむる一
 行状を以て之を日本兵に機を構へて殺すも
 入京せし一と

十三日

李鴻章ノ恨

十三日

倭傲常ノ日本ヲ蔑視セシ直隸總督ハ過日日本ヨリ出
兵ノ通知接シ同時在日本ノ清人ヨリ達シ報道ヲ
見テ忽チ顔色ヲ失ヒ頗ル恨ル體アリシヲ云
ハ引キ續キ清兵ノ派出、就キテモ遲疑シテ容易ハ
決スル模様ナシ并ニ早晚派遣、兵員ヲ増加スル
老練將ノ避ル能ハサレト

十四日

李ノ決心再々ノ出兵

朝鮮派遣ノ兵ヲ加倍シ倭傲政策ヲ維持スルモノ如シ
又天津ヨリ達シテ報道ミシハ
倭ハ恨ルモノアリシカ今ノ

李鴻章大部下軍隊朝鮮派遣
の爲ノ船艦十六艘運搬準備
命より用意、船艦十六艘運搬準備
出

李鴻章威嚇政策

李鴻章朝鮮政府援兵請接し、時局、
傲然として眼中に日本を見、早速請入し、軍隊を派遣
シ、不圖、同時に日本出兵、通知、接し、驚愕、不方シカ
平生、居、威嚇、今更、中止、由、更、大兵、威嚇、
日本、人、威嚇、事、ハ、從來、慣、用、也、清、国、陳、腐、年、取、リ
亞、細、亞、之、明、義、進、歩、ス、ル、今、日、此、陳、腐、年、取、相、成、ス、功、奏、シ、得、セ
ヤ

日
宇品土、未明出港、軍艦吉野、復返、
、濃霧、運送、船隊、紛亂、昨、十六、日、午、前、安、着、兵
隊、及、糧、食、リ、揚、陸、
清、国、軍、艦、五、隻、ア、リ、シ、昨、日、一、艘、出、港、
日、本、軍、艦、九、隻、ア、リ、清、国、陸、兵、千、百、計、リ、牙、山、
邊、上、陸、

今後、遠江、九、諸、港、間、通、信、船、ハ、様、々、リ
未、夕、上、陸、セ、シ、上、陸、上、外、見、辛、穂、様、々、リ

六月十七日

大島、少、將、ハ、昨、十、日、入、京、リ、積、リ

十八日終夜鴉噪天明不寐

是地震前兆イラン

十九日

二十日午後二時五分激震

◎

二十日清國芝罘より李鴻章五千人、大軍ヲ派出スル準

備、着手シタリト傳フ

○午後一時着相印、有樺川親王以下各大臣會議

時事新報

二十日夜、入ッ芝罘ヨリ清兵六千既、朝鮮、向テ出發

シタリト報セリ其白フ所確、京城ナリト云フ

○臨時内閣會議、未ヨリ御前會議、ハル大臣、外有樺川大將、山縣、松方、川上、中書、列席セリト

二十日午前一時有樺川小松兩大將宮殿下御参内
樞密顧問達、参院臨時緊急、諮詢アリクニベシ

十九日

日韓、電ハ

不通

不通、全ク雷雨、ハル

釜山、得、先次、不通、成リ、上海、通信、

絶、日韓、通信、絶、上海、通信、絶、

上海、通信、絶、朝鮮、平壤、義州、間、不通、成リ、

日韓、通信、絶、通信、全ク、途絶、ハル、上海、通信、

昨、十日、午前、一時、再、開通、事、成リ

二十日 清國上海、六月十九日、午前、一時、

招商局、汽船、船、難、目、耳、鼻、ハ、多ク、

清兵増發

二十日清兵六十朝鮮向う出發シタリ此報知ハ芝罘ニシ
モ清國孰シ地ヨリ斯ル多數、兵ヲ發シテ朝鮮孰シ地、
上陸セムルハ兎着、地未タ分明ナラズ兎三角旅順太沽天津
地方、兵ヲ發シテ牙山近傍、地ニ上陸セムルモノ、見テ大差有
可シ晚クモ本月中ニ朝鮮、地ニ着スヘシ
今度増發シタル六十ノ陸兵ハ無論李鴻章ノ配下ノ属ニ直隸府
ノ精兵ニシテ其出發ノ場所ハ前回ノ出兵ノ同様威海衛ナリト云フ
而シテ同所ヨリ仁川港ニ僅ニ十二時間ニシテ達スヘキモ我馬関ヨリ仁川
ニ達スルハ五十時間内外ヲ要スト云フ

二十日 朝鮮、局面危機印迫

袁世凱初ニ朝鮮政府ヲシテ日本、兵オノ撤去リシハシタ
モ同政府ノ所為ニシテハ手續ニシテヤ思ヒケン自身モ進ニテ大島
公使、請求スル所アリ

清國西國ヨリ齎シ来ル通報ハ比事態切迫、報サレナシ
昨モ三京城發シテ東京或ハ方ヘ達シタル電報據ル事態益々切迫
目一暮ヲ測ルハハカナルカコシヨシ
危機切迫帝國ノ國威ヲ保維セシガ為メ到底無事、濟ムコト能ハス
早晚断然シテ處置スルベシ

仁川 日本兵
仁川ヨリ着シタル軍隊、今日ヲ以テ盡ク京城ヘ入ル
二十日ヨリ前七時迄
時事特派員電報

二十日 昨ニ著朝仁川ヨリ着ノ電報

只今(廿日午後八時五十分)大同江ヲ巡航シタル着タル

船船報道、依、大同江、一名、清兵、不見極、

穩、
二十日天津、着、シタル、電報、在、如、

軍隊、二百、馬、數十、頭、ヲ、漕、船、搭載、シ、朝鮮、へ、送、リ、タ、リ、
引、續、キ、五、十、ノ、兵、士、汎、漕、ノ、準備、中、ナ、リ、

二十五日、仁、川、電、報、
清艦、定、遠、外、二、隻、當、港、來、着、セ、リ、

船中、下提督、見、ス、ト、シ、タ、

此、頃、北、洋、水、師、提、督、丁、汝、昌、ハ、軍、艦、三、隻、ヲ、率、ヒ、朝鮮、へ、向、フ、ト、
報、ア、リ、シ、昨、日、報、前、ノ、如、シ、

牙、山、に、在、ル、清、軍、ハ、今、尚、ウ、動、カ、ズ、
二十日、午後、七、時、ヲ、ハ、分、暗、事、ヲ、電、

京城

閔泳駿ノ位地危シ近日ノ内其職ヲ罷ラレハシ
ト噂ス

東學黨ノ真相

東學黨ハ日支兩國ノ出兵ヲ阻キ散シテ各所
潜伏シタルモノ、機ヲ伺ヒ又蜂起スル、恐シ、

廿八日

李鴻章ノ決心

是迄數千ノ兵ヲ送ル、揚言シテ、強硬ヲ装ヒ居、
李、伯、モ、今、ハ、真、實、決、心、シ、其、聲、ヲ、小、シ、シ、テ、實、際、ノ、
準備、忙、シ、是、ヲ、朝鮮、ノ、地、多、事、ト、シ、

金山より京城へ送る電線、旬日ヲ出たらんヲ再々聞通る

三十日時事

北京政府、李鴻章

○倫敦、六月二十八日、午前七時

當地外交家同ノ説、今面朝鮮事件ニ関シ李

鴻章、日本ノ舉動、對シテ真ニ故意ル運動ヲ始スモ

北京政府、之ヲ制止シテ許サズ他、即言ヲ待ツモノ

加、倫敦ノ報知、依リテ之ヲ見、ハ亦ハ大ニ單フ所アリトスモ

北京政府、割割時受テ進退意、如何ス、此師準備ハ必

午段ニ視做サレ、ニ事アリ、今後事端開キ、亦ナリ死事トシ意

見行不行ノ間ニ在リ

昨二十九日、東京

日本駐在朝鮮公使金思轍氏、外務省、栗野政務

局長、午後三時、神戸より、房島へ向テ出航

牙山、清兵四千、人、東洋黨、形ヲ潜メ退散セシ

昨二十九日、報

日不思議、ニモ、左ノ一報

○牙山、清兵、初テ動リ

牙山、清兵、率、わ、葉、枝、等、ハ、本月、二十、日、部

下リ、分テ、一團、ノ、軍隊、ヲ、為シ、亂地、向テ、汎、遣、シ、タリ

耳、聞、總、兵、之、ヲ、指揮、官、ソリ、ト、ノ、確、報、アリ、タリ

七月三日 時事新報

清國廟議ノ一變 主戰論勝ヲ割ル

李鴻章伯ハ日本出師ノ通牒ヲ接シテ真大軍派遣ヲ
俾著手シ日本ノ敵意ヲ運動始メントシタリ
制止ヲ許サス為メ李伯ハ運動一時中止サレタリ
報ニ報道ス所ナリ李伯ハ其制止ヲ遇フテ止ルベキニ非ス
李伯ノ意見ハ清廷ヲ動セシト見ヘ北京政府ハ前曾ノ制止ヲ
取消シテ再々李伯ハ運動ヲ許シタリ

倫敦七月一日午後八時三十分發 時事新報

北京政府ハ遂ニ李鴻章ノ意見ヲ容テテ出師運

動、自由、許可シテ、清兵、直、朝鮮、送出セ

李伯直、六ノ、各、送遣、シ得、歟、其、冬、上陸

セシ、地、大同江、沿岸、ニ、其、根拠、地、平壤、

ハ、大活劇、モ、將、幕、開、シ、境、進、リ、以、上、

京城、金山、線、通、ス

東洋、高麗、再、全羅道、峰、起、是、京軍、ノ、引、キ、表、面

ノ、鎮、靜、極、シ、信、ヲ、置、難、シ

牙山、ノ、清、兵、傲慢、無禮、モ、謝、受、同時、内地、進軍、シ、

韓、延、東、徒、平、定、院、北、シ、清、兵、却、テ、安、起、ハ、内地、境、如、何、ハ、疑、フ、

天津、來、電、七月、二、九、ノ、特、電

清國、何、時、十、五、衛、兵、即、チ、七、千、五、百、人、并、之、要、ス、彈、藥、

兵、糧、送、出、ス、差、支、ナ、リ、也、準備、整、リ、以、本、各、直、平、壤、道、上、陸、

平、壤、據、年、皆、ヤ、リ、シ、然、レ、モ、怪、シ、可、シ、今、以、出、發、模、様、ナ、且、李

鴻、章、配、下、五、衛、五、百、人、定、数、リ、備、也、他、ノ、衛、ハ、多、ク、欠、カ、ル、海、軍、

十、五、衛、兵、出、ス、モ、七、千、五、百、人、實、數、ナ、リ、

釜、山、來、電、七月、二、九、日、何、リ、船、隻、批、テ、濟、シ、見、モ、釜、山、更、ニ、電

六、月、三、十、日、正、午、迄、清、國、軍、艦、仁、川、鎮、遼、平、遠、揚、威、超、

勇、操、江、城、虎、六、艦、又、牙、山、在、モ、濟、遠、廣、丙、二、艦、其、外、吹、來、

各、國、甲、艦、米、英、佛、露、荷、各、一、隻、一、兩、日、中、英、國、更、ニ、三、艦、入、

着、ア、リ、清、國、甲、艦、各、國、軍、艦、取、巻、配、置、シ、在、リ

清、韓、要、求、韓、延、院、一、事、決、シ、以、東、徒、既、平、定、シ、最、早、清、國、兵、留、ム、

清國より朝鮮東徒略定より以貴國、撤兵の由を

我政府に應答せし、亦見れ所あり、以答覆せし

東徒未だ平定せし、ト認め、又善後、便法、妥協、
及ハス、直、撤兵、要求、應答、能ハス

此答覆、同時、於テ我政府、緊要、申入、清國政府、試
ト聞

清國へ、申入

今面、我政府、清國政府、申入、事柄、極、重要、
且秘密、素、之ヲ知悉、由、シ、雖、其、大、体、精、神、九、如、ソ、ナ、リ、

日清韓三國、土壌接近、其、關係、輔、車、唇、齒、
朝鮮、禍、乱、直、惹、き、貴、我、西、國、利、害、及、フ、而、シ、
時事、日、非、ミ、危、機、一、髮、
亦、貴、國、知、ル、所、仍、テ、貴

我西國、協議、申、韓、廷、向、諸、般、制、度、改、善、セ、シ、

大、内、治、理、整、正、シ、將、来、禍、根、断、テ、百、年、大、計、定、

シ、事、韓、廷、力、著、セ、シ、欲、是、我、他、意、非、唯、

朝鮮、獨、立、邦、ヤ、以、東、洋、大、局、平、和、維、持、セ、テ、希、フ、

清國應、之、件、ケ、テ、而、シ、彼、向、前、言、

孫、返、シ、テ、如、答、酬、シ、

東、徒、已、平、定、シ、最、早、兵、留、兵、要、シ、仍、我、兵、撤、回、ス、

レ、同、時、貴、國、亦、撤、回、セ、ラ、レ、シ、又、韓、廷、對、貴、我、西、國、力、著、

協、儀、應、答、シ、

我獨、力、勸、告、

清國政府、我、協、儀、應、答、シ、其、侯、去、ハ、キ、ア、ラ、ズ、仍、我、政
府、對、大、島、公、使、下、シ、以、我、獨、自、一、箇、見、所、以、勸、告

眞
眞

ミクル由近日大島公使、韓廷、向て大激論アリし、傳ルハ善
此事、漢スルカ又同公使、在牙山、清國將官、朝鮮、
元末中國、属邦、云々、訓告リ所在、掲示スルヲ袁世凱
氏、諸リ同時、韓廷、向て其不都者、責メタリト言ハ、此一事
、付テモ、公使、輒然、厲言シクル、事實、云々、我政府、清國
ノ不同意、モ拘ラズ、毅然、トシテ、始終、同一、地歩、ミテ、獨力、以
テ、韓廷、試ミ、何事、ノ、壯圖、而シテ、我政府、決心、ノ、堅
キ、之リ、一昨日、來、形勢、カ、察スルモ、明白、ナル、如シ
清廷、ノ、恨、恨、恨、
李鴻章、氏、當所、リ、日本、リ、大戦、避ク、ベキ、アラズ、假令、日本、一時、大
兵、派遣、スル、内、議會、ノ、困難、アリテ、政府、ノ、威信、已ニ、墜、ツ、久シク
大兵、外、化、シ、其、鉅費、耐、フ、ベキ、あらざル、斯、時、ニ、コソ、我、リ

大兵、ヲ、送り、場合、依テ、戦端、ヲ、開キ、彼レ、日人、ノ、頭、ヲ、抑ヘテ、置ク
カ、得策、ナレ、果ズ、ベキ、好機、今日、在リ、ト、いハ、意氣、軒昂、眉宇
俱、揚リ、シ、ト、聞キ、リ、ガ、今、ヤ、其、各、根、ホ、未タ、乾、カ、ル、此、三、四、日、間、
彼、ハ、

（六月二十日）
（七月三日）
（七月四日）

北京、天津、在、外國、使臣、向テ、外交、上、ノ、援助、トシテ、日、清
間、調停、ノ、勞、ヲ、取、リ、シ、ト、シ、ト、同時、急命、ヲ、下シテ、在、牙山、ノ、兵
在、仁川、ノ、軍艦、何、分、ノ、指令、ス、テ、ハ、運動、ス、ベキ、ヲ、ス
ト、最初、ノ、勢、モ、似、モ、付、カ、サル、有、様、ハ、一、我、ハ、急、大兵、ヲ、派遣、ス、ベキ、ト、
思、ヒ、タ、ル、モ、案、外、ニ、大兵、ヲ、送り、而、モ、其、際、ハ、い、威風、凛、凛、ノ、彼、ノ、豫、期、
外、ニ、出、テ、リ、シ、モ、固、シ、カ、他、ノ、一、北京、政府、於、テ、本年、ハ、西、大、后、（六十）
壽、賀、ヲ、行、ハ、ス、ル、ベキ、嘉祥、ノ、年、ナ、リ、他、國、ト、兵、ヲ、交、ハ、ル、大、不、吉、ニ、シ、テ、若シ、戰
勝、能、ハ、ズ、ハ、今、上、祖、宗、ノ、靈、ヲ、對、奉、リ、テ、不、幸、ノ、至、リ、ナ、リ、ト、主、意、シ、

非戰論ノ勢力アルモ因ルベシ又李鴻章氏日本ハ政府ノ力
弱シテ永リ國論ノ全湧イ場ヲベキアラザハ此時ニ果テ戰
争スベシト言ハルモ前年佛國ノ事ニ當リ曾紀沢氏佛
國ニアリ頻テ賄賂ヲ政府反對ノ新聞ヲ議員ト報シ佛國人心
ノ倦ミ易キ業シモ畫策圖中リ當時歐人頻々嘲笑タルモ
均ス幾分切リ收メ得ルヲ定テ我國ニ同様ナルモ連断シタル
緣由ニテ而シ此ノ如キ政策ハ清國ノ往々好ム所北京經
理衙門モ結局李氏ノ説ヲ用ヒテ至ルベキヲ對リ難シ

露國公使ノ往來頻數
以上新聞
過日來旅行中ナリ露公使ヒトログー氏ハ我外務
大臣及清國公使ト間ニ奔走シ居由前號ニ報シ

七月一日

置キカ一日曜日官邸制議、終リタル後同公使ハ伊藤
省相ヲ訪ヒ密談多時渉リタル由 日、新聞

七月一日

六月三十日清公使汪鳳藻氏、露公使ヒトログー氏ヲ訪密談
數刻ミテ辭去リ露公使直ニ書記官ヲ從ヘ陸奧外相
、邸ヲ訪ヒ談話多時渉リ其夜九時頃清公使再ヒ
露公使ヲ訪ヒ翌朝又清公使又露公使ヲ訪フ露
公使書記官ヲミテ陸奧外相ニ書翰ヲ贈リタル言フ

國民新聞

臨時例議

一昨七月一日曜日ニモ拘ラス各大臣ハ残りテ午前
時半ヨリ省相官邸ニ會シ省樞密山縣樞相松方伯川上中務

午後三時密議ヲ凝ス 日新聞

首相及外相ノ参内

昨日午前十時伊藤首相ニ陸奥外務大臣共ニ参内シ

親シク奏上スル所アリト聞ク 日新聞

露國公使

政府之ヲ退クナリ公使ニ鎌倉ノ箱根ニ今日夜

出發シタリ

三日前 清國政府未タ戰意ヲ決セズ

清國政府未タ戰意ヲ決セズ 三日前 清國政府未タ戰意ヲ決セズ

斷ノ兵一令ノ下ニ出發セントス 風説 昨日天津ニ或

節ハ電報則チ其後未電ニ至ル實際ニ出兵ノ模様ナリ

又之ヲ他事情ニ徴スルニ **右決意及ニ出兵ノ二説共ニ適カ**

信スヘカラス委細ハ明日ノ本紙ニ登載スベキヲ以テ精讀セズ

今日參謀本部近衛師團司令部各官衙林布第一師團

司令部ノ間ニ事令騎馬若クハ細引ノ姓機織ニカカリ

只事ニ見受ケタ 國民新聞

四日 遠カニ信スヘカラス所以

昨日乃ハ號外配送ノ後天津特別通信より九ノ電報ヲ接受ハ

清廷ノ將來朝鮮ノ派兵ハ大同江より上陸セシムル事ヲ定メ

何時ニモ出兵スル準備整ヘ唯待命中ナリト事ニモ **今日**

近更ニ出兵ノ模様ヲ不見ル甚タ不審ニ或ハ出兵ノ虚勢ハ一時部

下ノ軍令懸然ニ策ニ出タリト云フ (三日前天津發)

カチ右ノ如ク出兵ノ模様ナリト云フ 出兵ハ例ノ虚喝ニ出ルナリ却テ

辭外交上ノ援助、假リテ北京天津、在二三強國、露英、
使臣哀求シ取別、或ハ大國、總リテ日清兩國、為ニ調
停、或ハ現ニ其國政府、盡ク、依頼シテアルハ主戰論、一変、
出ス、忽ク、言フ清廷、所為ト思ハス、且主戰論、出兵、風説、
不思議ミ我官吏ノ聞、其種、方面、流布セシ、何由、主戰
論、一變、風説、既、信、措、難、然、レ、他國、援助、シ、假、ハ飽、
弊、更、重、シ、平和、ヲ、取、盡、ク、意、出、ト、辨、疏、ス、
政府、申、シ、之、對、韓、協議、應、セ、ル、是、亦、怪、訝、ス、
極、ナリ、
清廷、意、向、何、
日清兩國、東洋、大局、維、持、ス、於、テ、與、カ、リ、朝鮮、致、シ、其、力、
ノ、保護、者、以、テ、任、セ、ル、ベ、カ、ラ、ズ、ト、曾、テ、伊、藤、伯、ト、李、鴻、章、が、天津、
談、論、を、結、果、ス、
今、日、公、使、李、任、力、氏、現、公、使、王、鳳、藻、氏、
皆、異、口、同、音、ト、稱、道、ス、所、ヲ、然、レ、我、政府、が、今、日、協、議、ヲ、試、ミ、
韓、

延、**勸告**、朝鮮、ヲ、テ、割、度、ヲ、改、善、シ、内、政、ヲ、整、理、シ、將、来、禍、根、ヲ、断、
面、身、ノ、長、計、ヲ、定、メ、シ、一、意、他、國、ノ、侵、略、ヲ、防、範、シ、永、ク、一、獨、立、國、ト、シ、東、
洋、此、ニ、モ、シ、テ、ト、ス、ハ、盛、意、其、ク、遠、志、ミ、虚、喝、ミ、セ、ト、韓、軍、衣、
ノ、關係、ニ、我、國、對、シ、主、戰、論、一、決、シ、タ、ト、喧、傳、セ、ム、
何、抑、何、邊、存、ス、或、ハ、清、廷、從、来、ノ、方、針、今、日、何、事、
全、ク、一、變、シ、リ、ト、言、ハ、亦、甚、ダ、面、白、我、何、時、
備、**傍觀**、
ハ、表面、的、我、好、意、眞、情、
敵、意、
延、**助言**、
多、ク、障、碍、
此、一、問、題、
不勤如山、
我、ノ、廟、議、

清國政府ハ始メ主戦スルヲ如ク中ゴ非戦スルヲ如ク然リ得ル主戦カ
如ク(應疑フベキモ)廟議ハ猫眼ト般ナリ觀ルニ反シ我政府廟
議初ヨリ確定シ動リ所ナシ仍テ清韓兩政府如何キヲ廻シ
テ依頼シ從テ此上如何ニ強大國ノ其間ニ立入り調停ヲ試シトモ
之カ為メ廟儀ノ變更スルヲ決シテアラザレハシ

以上明治廿七年七月四日半官報ノ觸込
清國首要ノ戰鬪力

一北京天津太沽北塘山海關、宣臺、軍糧城、新城、
小站、富廠、岐口、保定府、正光府、大名府、古北口、遵化州、
石門、宣化府、庫倫、承總府、西沽等、各營兵數
步砲兵 三萬八千七百餘人 騎兵 一萬一千餘人
水雷兵 二百九十四人 水師一營七百五十人

急電飛來(四日夜)

我清國政府ハ不日大軍ヲ派遣シ日本兵ヲ排斥シ
朝鮮國ヲ保庇ス可キヲ以テ安堵スル決シテ日本兵ノ東
韓ハ根柢シ事ヲ誤ル勿シ

急電飛來(四日夜天津發電)

太沽兵出師、準備北シ山砲十二門、カワトリシク砲十二門及ヒ
銃器彈藥ヲ波止場運搬シ了、運送船廻送ヲ待ツニ
運送船集ラハ太沽ヨリ兵士兵器ヲ朝鮮ニ派遣スル等カ其
向フ處ハ平壤ニ在リ李軍略ニハ川急城、日本兵ノ占居スルハ牙山
ト平壤、駐兵ニ遠ク日本兵ヲ繞圍スル軍略ナリ

牙山駐營ニ二千一百人

(可合兵數ニ超スリ)
合計九千六百八十號

運送船欠乏ハ願ハ困却ニ居ル由

六日 倫敦來電

支那の外交上失敗ミナリタイムス其他ノ諸新聞均シ支那
失敗ヲ説ク

○天津來電

廣東艦隊、屬る軍艦八隻、直隸灣、招集セシ太沽
近海、泊在シ命令ヲ待ツモノノ如シ

清廷亦東徒ノ平定ヲ認メス

京城來電

李鴻章より朝鮮國王、對シテ大ニ趣意、電報ヲ送リ越

セリヨシ或ハ信スヘキ節節ヨリ聞キ得タリヨリヨリ十時京城發

日本、大兵ヲ送出シタルモ今ハ進退維谷ノ有様ナリ

清國ハ日本ヲシテ必ス其兵ヲ撤回セシムヘシハ大島公使ヨリ何

等提議タルモ韓廷、於テ一切耳ヲ傾ケラン、勿レ

朝鮮政府、意向國民(三日午前ハ時京城ヨリ或方電報)

朝鮮國王及朝鮮政府、日本國、依頼タル傾向ヲ生セリ支那

ノ苦情ナリバ日本國、要求リタルモノ也王アリ

清國、主戰策七月二十日午前七時天津特發(時事

李鴻章伯、主戰建策、遂ニ北京政府、採納スル所ナリ

ヨリ十時營ノ兵士朝鮮へ派遣セラルベシ兵士大同江ヨリ
上陸シ平壤根柢ヲ置クナリ

次キ北京ヨリ達シる電報モ亦白ノ建築採用セシ廟一變セシ
1の報セリ 北京電報七月一日午後四時十分特發
當地諸外國公使ノ間ニ統理衙門カ李中堂建築
ヲ密シテ出兵ノ議一決セシ事ヲ確信セルモノ如シ現李伯
出師ノ報天津ヨリ達シタリ

六日

國民新聞

韓廷日本黨生シ我國ニ依頼スル傾向生シタリ安期壽
政府ニ勢力ヲ伸ビ前ノ我國ニ駐劄ノ公使金嘉鎮ハ外務
省議院ニ在リシ多ク我政府カ朝鮮國ニ要求セシ大体趣意
ノ如キモ朝鮮政府ノ承諾スル形勢ニ成リ要求ノ目次
日韓兩國ノ公使金憲徹ノ喜ヲ携歸ス程ナリ以テ支那
政府ハ狼狽恐懼ス所アリ見ハ李鴻章ハ尤ノ如キ電報
韓王ニ贈リタリ

七日

京城來電

日報

清將聶臣名ヲ韓王謁見假リテ牙山兵ヲ率ヒテ
京城ニ進シ先ツ水原ニ屯駐シタルノ報ヲ得タリ

衝突一瞬間ノ日報

間、迫リ来リ期スル我軍素ヨリ事ヲ起シテ好ムモノ非ハ雖モ我
和戰兩様ノ準備アリ何時ヲモ清軍ヲ迎ルヲ辭セズ

往來明瞭

煥公使清公使ヲ訪問ス密議時ヲ多ク露公使外務省到大臣
密晤ス某公使間、飛信來往ス。某公使ハ本國政府ト間、
電信往復ス是レ近ヨリ形跡ナリ

英國ノ仲裁

七月六日午後九時倫敦發

時事新報

英國外務次官エドモンドグレイ氏ハ公言シテ曰ク我政府ハ日清

宋國ノ仲裁
宋國ノ亦頻ニ仲裁中
九三

米國、亦頻々仲裁中 九三

牙山清
兵進軍

京城七月六日午後七時十分

牙山、清將聶良、朝鮮國王に謁見を爲メ、二千ノ兵率
 ヒ京城に向テ進發シ、水原府ヲ距ニ里計ノ地ニ達シ、我
 公使ハ此進軍ハ衝突ノ憂アリト注意シタレト、之ヲ聽ヤ否
 定カラス、

廿年六月

竹

水作山石

李之白

廿

一子以爲之書願之乎本此也去願之乎也

一、
此
子
二
三
四
五
六
七
八
九
十

廿七

一四四

讀書法

地水折局

竹

[illegible]

竹

おき

中里子午山
晚谷及生
功定刺心服

[illegible]

六月二十日

朝臣收據山邊紀と爲る新史を願
朝鮮族の所著法公傳之書内にも又此を
此上十年未だ不聞其方と叙陳する所を改
正す然るに已に大兵を出さざるは戦争
の事なり朝鮮一擧ぐを待たず新末呂林等軍
艦器械兵士を河上を以て一掃破砕するや
又逆樹り少く時宜ふ亦海の大安閑降
臨し一身の力を盡し國を報するに如く
是より行拂はむ公傳の如く其方少く且ち
清季の最初より今に至るまで

考動きいぶが目的日本は関海中心で下
と日本と兵事と起るゝある海軍と此轉るゝ
必し日本は勝算を免れ来てその威嚇を
義何と云ふ是れ不慮多し法より便と云ふ
戦ふ義を敢て言ふと實際は云ふ
後法は使つたに及てし今大山と云ふ一語は
P. 七に近きま拘は使ふありと云ふ

其を指し山をいふ

晩方里留と云ふ沙石は法を便に時節を尋ね
るに往くは法を便に時節を尋ねるに往くは法を

と留る中より和をいふ關係はよく一語は
尋ねたやを舞う改まるゝ法を便に時節を
言ふ多し和をいふと云ふは別な事
と云ふは仍て十六七年は關係はよく和を
表はすは和をいふと云ふは別な事
和をいふは和をいふと云ふは別な事
和をいふは和をいふと云ふは別な事
和をいふは和をいふと云ふは別な事

二十一日

手紙を用ひる巻軸は跋文と書き一筆法は
法三巻と國中自給に批把一語と云ふ



以下
5丁
白紙

七月廿五日
出陣朝鮮內情
豐島之戰及牙山

新 陣 内 部
十月十日 豊島 砲 火

廿四日佐世保より司令官坪井秋津洲浪速吉野三軍
艦ヲ指揮シ秋津洲ニ上村大佐浪速ニ東郷大佐吉野ニ
川原大佐乗組ニ探偵トシテ速力ヲ速ク密ニ出艦ス十
二時ニテ安眠島ニ着ス五時間ニテ豊島ニ着ス廿
五日微明清国軍艦靖遠廣乙操江等ヲ着テ
配置ス我が將校旗ヲ見テ彼礼砲ヲ發ス闘戦
ノ準備ヲス^爲艦忽ニ開戦猛劇双方烈戦成
リ一時世合ニテ靖遠号ニ清国ニ向テ逃走ス乙ノ牙山

ニ向ケ道然^ル清國軍送船操江降伏体ヲ示シ
忽^ナ再^ビ抵抗依而運送船ヲ打沈^ス秋津洲
操江捕獲^ス運送船船長一名英人二名西班牙
人一名ヲ救ヒ操江乗組人員八拾二名八重山艦ニ搭
載シテ佐世保ニ送ル我軍艦無事此段報
告ニ及^フ

連合艦隊司令長官
伊東祐亨

大本營

依而操江乗員受取^リ八重山艦ニ投^ジテ佐世保ヨリ
安眠島ニ至急ニ相送^ル

仁礼樺山曰^ク海上一時セ分^ノ戦^ニ我三艦ノ無事
ナリモ不^レ案^ナ由^リ一時セ分^ノ戦^モ餘^リ時間^ヲ費^ス思^フ
廿五日^ハ海上暴風^ノ戦鬪^{互ニ}意^ヲセ^ル靖遠
号^ヲ脱^走シ^テ實^ニ遺憾^{ナリ}

其報告八重山艦釜山ニ來^リテ電報ス今朝漸
ク達^ス清國方^ニ靖遠号威海衛^ニ着^シテ天津^ニ

電報セト見ヘ其ノ開戦、報ニ昨夜半（廿七日夜）其
筋ノ関ニ該報ニ金山報ニ先ダテ関コ

柴中尉ヨリ川上參謀宛テ

廿九日朝京城ニ集、陸軍全カヲ舉ゲテ牙山ニ向テ
清兵ヲ鏖スルニ廿九日、兩日間ニテ某山上ヨリ
牙山沖ニ向テ遙カニ砲声ヲ聞ク、願フニ海上開戦我
軍勝利ト信ス

福島中佐ヨリ參謀本部宛テ

京城改革段々歩ヲ進ム王妃瘞セシ大院君非
常ノ奮発門地ニ天ス人オヲ登用ス、閔族ニ處罰
足可シ廿三日韓兵開戦ノ節大砲ニ内小銃三千挺ヲ
右何モ廿八日電報

分捕ス

威海衛旅順港只今混雜如何ナラン先ヅ
朝鮮、大段ニ洛ニ片著キタリ

電報セリ見ヘ其ノ開戦、報昨夜半（廿七日夜）其ノ時、漢大ニ期、成、中、義、成、七（タケテ）閃、コ、

海衛文國卷四
只今說離心
何十一
光

卷之八

梅

軍勝利ト信ス

福龜井村移住者名簿

楊成

張

美

汪

陳



第一卷

日清事修

廿七年九月廿六日紀事

大體

日清事修
九月廿六日
紀事

日清事修
九月廿六日
紀事

陸海

此戦十年早シ

今日も戦實カアラセム人不承服

露北地、漁業ヲ一身に担ヒテ六十年ノ海ヲ世ナリカス
 已ニ百年ノ経過ニミノ一ヲ成就ス

日月ハ人ヲ不待ナリ

我ニ等甲鉄艦ニ自今以後六十年迄ヲ成シ

東洋ニ一等甲鉄艦ニ此ヲ始メ

泰西ヨリ若シテ東洋ニ運送スルニ希望ナリ廻ラハル

海地中海ノ坳割ニ運船大ニシテ成ナリ

セリ

各國ノ情勢ヲ知シテ露ト佛トイフ日清ノ戦ヲ局外中ニシ

不為其今日日本ノ舉動ヲ中心ニ其意ヲ所見ベシ

昨去隣國ノ德義トシテ平和ヲ望ム或ハ清ニ恩義ヲ加ヘ

テ十分アルベシ

我ニ等米利カモあり局外ノ事ナラズ

先年キリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

各國中我ニ等入リテ最モキリシヤノ實利ヲ与ヘズ

ハルトン 露艦ヲ建白シテ決シテ我ニ等ノ守ルヲ要スベシ

ト此論ヲキリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

ルイアル

以テ露艦ヲ建白シテ決シテ我ニ等ノ守ルヲ要スベシ

シテ清海廻ル此船米ルニ英國ノ印度支那ニ運送スル

ト日ノ艦隊我ニ等力カキテキリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

我ニ等力カキテキリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

我ニ等力カキテキリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

我ニ等力カキテキリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

我ニ等力カキテキリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

我ニ等力カキテキリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

我ニ等力カキテキリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

我ニ等力カキテキリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

我ニ等力カキテキリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

我ニ等力カキテキリシヤノ主身古ク我ニ等キリシヤヲ勝テ居ル代ニ

中平 海 中 港 初

昨キリシヤ 露艦 我軍艦 旬ノ内 上陸 兵

海軍大臣 東郷平八郎
 海軍少将 伊藤整一
 海軍中將 三浦梧村
 海軍大佐 高橋大佐
 海軍少佐 山本武雄
 海軍中尉 山本武雄
 海軍少尉 山本武雄
 海軍中士 山本武雄
 海軍兵 山本武雄

海 陸
 黄海之戰
 平壤之戰
 共九月十六日

廿七年九月廿二日 早晨枕上夢見
 昨於十時第一師團司令官口海元洪青山練兵場
 步及以分之處立於基石前校閱各兵隊下士平
 沙万軍人軍馬以千七百頭沙十日把以二十名と浪
 車六千列車車數千多輛を 廣島に出発す
 此兵を指揮する全權は大山陸軍大將に所屬
 廣島に於て此の第二軍司令官少輔と其
 我軍艦三十二艘運送船三十六艘を十月初
 旬より廣島宇品港より出帆せしむる旅順港
 占領の策又威海衛を佔領す
 上陸中一旅順口より領する大目的は

勿論海軍の強弱より二重三十三里を難くする運搬を
 之を援け舟端舟多河山持年上陸の運搬を
 船より上陸大舟より運搬の占領を不難と見て
 ・ 日本大軍旅順港を占領した
 ・ 平壤の第一軍司令部官山縣大將は
 龍鴨緑江を渡り数日海州を打破
 奉天府を占領した
 此世好大利運を占領して一先つ一息を吐
 北京を攻め第一軍を運送此時清廷は平和
 策を講み賠償金談判が始まる
 ・ 第一英國露國の運動如何
 ・ 既に法國米國の意向如何

長崎
 三都府

先年露國の青島を攻む歐洲諸國招へ伯林廣
 合し露國の權利を與へ却る英國の青島
 右露國の境界の好要の島を占領し露國
 の貨物を抑留し此は露國の運搬路を
 歐洲平均の策を取ら
 露國の補給即ち此は露國の
 意を成りたす
 露國の大臣は露國の東部海軍司令官
 官と派遣し、風波を達し王を傷め補給を治療する
 此は露國の三月より露國の東部海軍司令官
 ハ十四歳を隠匿する局もあつた露國の補給と結ぶる書物
 死する浮城より將來の露國を占領する
 露國の海軍の將士は露國の東部海軍司令官の補給と結ぶる書物
 長崎を借りながら四時一は露國の補給と結ぶる書物

高年二月シ魯國公使并持嶺砲泊し軍艦船將レツキスサ一日
皇帝御也改作廿三月ナシ。夜多凶賊の毒子觸レ強盗一箇ニテ
珍重せらる年數ヲ十三年此より夜廷曾紀法に談判を云ふ伊果
談判も改圖セリ ツキスヤハリミヤの戦い次安政甲寅我下用み
来て君澤形を作じ人々

我朝國物之武を以て宇内を渡りて國を以て
 我朝を以て振舞ひて我朝を以て無功遂に
 皇帝我國民に命を以て却て我朝を以て
 古帝を生じて我朝を以て我朝を以て
 今我朝朝鮮に我朝を以て我朝を以て
 法廷に屬邦論を打破して平壤掘守を以て
 我朝一撃を下して我朝を以て我朝を以て

隻打たらしむるにたらず。盛京省大孤山津
海軍とて、^最北洋艦隊、^最大艦あり。
戦艦十艘、水雷艦四艘、と今世より十
艘と我三艘、軍艦と我二艘、四艘
と事轉沈し、或は災災と為し、毀傷漸
く威海衛に逃去す。少くも海陸軍有る
大勝利と浮き、不肖者輩、直隸
及び、^と物方と云ふ、^と我
日軍軍威、^と宇内、^と初志、^と時多、^と一艦
然るに、^と我軍、^と貴神速、^と天啓地利、^と利と云ふ

[illegible]

廿七年九月九日

大隈、人運、災、福、之、害、身、之、銭、爲
江、後、皆、不、幸、之、刑、死、之、露、之、運、り
陸、奥、之、國、中、亦、多、く、獄、繋、り、過、し、在、り
之、大、臣、と、い、ふ、保、御、之、大、切、と、立、ち、し、此
亦、運、り、之、事、と、い、ふ、必、に、利、と、福、福、
の、大、と、い、ふ、差、異、は、あ、り、我、等、も、胆、前、と、い、
ふ、生、と、い、ふ、人、名、利、は、何、き、と、あ、り、し、と、い、ふ、
大、臣、と、い、ふ、事、と、い、ふ、世、人、と、い、ふ、事、と、い、ふ、

くろく後連なりし

明治廿七年九月

十七日午前三時第一號外

九月十二日午後八時朝鮮釜山發電

我軍ハ昨十日以來右道並に進みて激烈の連戦を
經連勝の後今十二日於赤明邊に平壤を臨み
我軍死傷凡そ三百人沙呂死傷を算其身を
以て免じたものまで少數なり我軍大勝利

十七日午前十一時大本營發る轉送の電地

未電陸軍省への公報

昨日未師團は平壤を圍み激戦の後大勝利
十二日明赤明全く平壤を略取す敵死傷の極
多し我軍將校以下死傷三百あり多し

跡

九月十二日

野津師団長

十七日午前二時廿五分陸軍省着電

師団の糧食運搬の大困難を拘けり各道に
圍み激烈なる戦闘の後大勝利を得今十二日
未明より全く之を取替り敵の大將た實
以下北傷生擒其他兵器米穀の我手へ落
しもの極めて多敷り敵の兵力は二万と補
昨日一二群となりて我哨兵線と道との
他概ね死傷及び捕虜となり
我の軍の死傷は將校以下大約三百多なり此大
勝利を得しハ戦 天皇陛下の威徳を將校以
下の忠勤にあらんずば如何とす

十一日平壤より野津師団長

因に前日電報中の敵の大將た實
奉天府及牛莊附近に在り奉軍の統領あり

勸業

癸巳年

久矣早經國足千秋經國人推春初侯昨夜
湘南天候象好海客星定入此出微不

招仙閣呈春初侯

栗香生

霸氣銷沈山色遙大磯平塢晚蕭蕭美人
千古化為石風雨聲寒花水橋

書輟西窗危水橋詩

招仙閣主人

佛國船臨安南故都
竹寺在宋棠初玉麟
曾紀澤波州公侯
看被一內外夜下且清
醉親王在生指揮一
乃回日年
之生飲官子
君至同
之老將一宋唐
之老將一宋唐

予亦大保之乃稍後以之不可也
 清之退抑之也
 前之安也
 後之安也
 中問之安也
 大限之安也
 保之安也
 保之安也
 保之安也

成りし室より我の義士に於て其を
 佐用に見せしむるに其情は是れを
 一に責めしむるに其情は是れを
 将東に流ししと不為れり
 其も此の流し人民に為るる
 義士に於て其情は是れを
 其も此の流し人民に為るる
 其も此の流し人民に為るる

六月 一日	六月 二日	六月 三日	六月 四日	六月 五日	六月 六日	六月 七日	六月 八日	六月 九日	六月 十日	六月 十一日	六月 十二日	六月 十三日	六月 十四日	六月 十五日	六月 十六日	六月 十七日	六月 十八日	六月 十九日	六月 二十日	六月 二十一日	六月 二十二日	六月 二十三日	六月 二十四日	六月 二十五日	六月 二十六日	六月 二十七日	六月 二十八日	六月 二十九日	六月 三十日
----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-----------

[illegible][illegible]

日 廿五日 申辰	八月 一日 申辰	日 廿九日 申辰	水 二十日 申辰	土 二十日 申辰	火 十七日 申辰	金 十三日 申辰	月 九日 申辰	木 五日 申辰
六日 申辰	三日 申辰	廿日 申辰	廿六日 申辰	二十日 申辰	十八日 申辰	十四日 申辰	十日 申辰	六日 申辰
七日 申辰	三日 申辰	廿日 申辰	廿七日 申辰	二十日 申辰	十九日 申辰	十五日 申辰	十一日 申辰	七日 申辰
八日 申辰	四日 申辰	廿一日 申辰	廿八日 申辰	二十一日 申辰	二十日 申辰	十六日 申辰	十二日 申辰	八日 申辰

日	水	九月	水	土	火	金	月	木
九日	五日	一日	廿九日	廿日	廿日	十七日	十三日	九日
子時入夏	戊子年五月五日	戊子年九月一日	戊子年九月廿九日	戊子年九月廿日	戊子年九月廿日	戊子年九月十七日	戊子年九月十三日	戊子年九月九日
十日	六日	二日	廿日	廿日	廿日	十六日	十二日	十日
戊子年九月十日	戊子年九月六日	戊子年九月二日	戊子年九月廿日	戊子年九月廿日	戊子年九月廿日	戊子年九月十六日	戊子年九月十二日	戊子年九月十日
十一日	七日	三日	廿日	廿日	廿日	十九日	十五日	十一日
戊子年九月十一日	戊子年九月七日	戊子年九月三日	戊子年九月廿日	戊子年九月廿日	戊子年九月廿日	戊子年九月十九日	戊子年九月十五日	戊子年九月十一日
十二日	八日	四日	廿日	廿日	廿日	十八日	十四日	十二日
戊子年九月十二日	戊子年九月八日	戊子年九月四日	戊子年九月廿日	戊子年九月廿日	戊子年九月廿日	戊子年九月十八日	戊子年九月十四日	戊子年九月十二日

[illegible]

芳川司法大臣廣島へ赴

六月三日 六月四日 六月五日 六月六日 六月七日 六月八日 六月九日 六月十日 六月十一日 六月十二日

大島公使朝鮮出發

此日大震

郭清傳汪鳳森叩首

三 日 月	四 日 月	五 日 月	六 日 月	七 日 月	八 日 月	九 日 月	十 日 月	十一 日 月	十二 日 月
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	--------------

[illegible]

廿七月 廿七月 廿七月 廿七月 廿七月 廿七月 廿七月 廿七月
 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月

樺山資紀海軍少將
樺山作世係瀨軍少將

七月廿七日 日	佐世保より秋津洲吉野浪速三艦十二ノットニテ出帆	杉ヲ朝鮮破裂ノ雲氣報来ス
七月廿六日 日	朝鮮牙山沖豊島ヲ用戦清濟遠艦ヲ打ツ所乙自燒高陞ヲ沈操江号ヲ捕獲ス	劉公沂來
七月廿五日 日	家人何者保行	樺山今夜佐世保ヨリ歸京ス
七月廿四日 日	比夜ヨリ濕成海軍牙山ノ兵ヲ斬成數ノ壘ヲ取ル	樺山軍令部長ヲ訪サ甘井豊喜島海戰线軍勝利ヲ報シ聞ク
七月廿三日 日	天明戦争	
七月廿二日 日	牙山清兵皆斃	
八月一日 月	日清兩國和破し宣戦セ布告	

[illegible]

廿八日 廿八日 廿八日 廿八日 廿八日 廿八日 廿八日 廿八日

蓋樓名山祈大八
安全

安金

回香保之

上泉直義

上卷

梅子

大八發陝西省西
府

百樹紅說黑田

九月 十日	九月 九日	九月 八日	九月 七日	九月 六日	九月 五日	九月 四日	九月 三日	九月 二日	九月 一日
						第一軍司官山縣大將今夕朝輝出發第三名正領其工			

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

日新
土呼
上函
特電

十一日	土月	全露國皇帝陛下第三也陛下本日午後三時リウアヤに於テ御親臨あり	土月	第一軍、吉報	鳳凰城ハ取セラレ落	第二軍、吉報	日本軍金州城通リ攻勢中ナリ大連	土月	露帝崩御ニテ、堂吊	四日	魏式アリ	五日	李鴻章准軍十四萬人ヲ率ヒテ出陣セリ	土月	李鴻章准軍十四萬人ヲ率ヒテ出陣セリ	土月	此夕日本軍大連湾ヲ略取ス清國艦隊咸海行停着ス	六日	我艦隊ハ大連湾内ニ布設セル水雷器具他各種四面等ヲ收容シタル	七日	大連湾ノ最狭キ處凡シ我三軍余	八日	午前陸兵ハ大連湾ヲ攻勢ス	土月	八日午後三ハ大連湾ノ全ク我有ル成	九日	艦隊海内ニ布設セル水雷ノ根據ス	十日	土月	
-----	----	--------------------------------	----	--------	-----------	--------	-----------------	----	-----------	----	------	----	-------------------	----	-------------------	----	------------------------	----	-------------------------------	----	----------------	----	--------------	----	------------------	----	-----------------	----	----	--

2

土 日 月

[illegible]

日

山縣大將安東輝
子亮、召還ノ所也

第二章 德川時代

日

旅順口陷

蘇頌先生
文正公

法國政府、或優り、或テトリシテ、國智て人
なり、神に大徳を以て、事あるを、公に爲れ、爲るを

皇王の跡を誦め

[illegible]

テヨリシグ神々出帆右ニ使節ノ
資格ナシトテ返ニ返ス

[illegible]

昨某年戰胡口

一第戰七月廿日	朝鮮京城	一第戰七月廿日	豐島沖
一第戰七月廿日	朝鮮咸鏡	一第戰八月廿日	威海衛
一第戰九月十日	朝鮮平壤	一第戰九月廿日	黃海
一第戰十月廿日	盛京九連城	一第戰十月廿日	鳳凰城
一第戰十月廿日	盛京金州城	一第戰十月廿日	大連灣砲
一第戰十月廿日	岫巖	一第戰十月廿日	旅順口
一第戰十月廿日	金河子	一第戰十月廿日	草河口
一第戰十月廿日	柞木城	一第戰十月廿日	海城
一第戰十月廿日	紅尾寨		

廿八年

第一章 第十八戰

蓋平 一百廿

第二章

第十九戰 一百廿 海城逆務

第三章

第二十戰 一百廿 蓋平砲擊

第四章

第二十一戰 一百廿 海城再戰

第五章

第二十二戰 一百廿 紫城河上戰

軍費

一百四十萬圓 一月十二百萬圓

一億五千萬圓 帝國層級

一第一師團 東京山地司令官 一第二師團 仙臺依崎司令官

一第三師團 名古屋桂司令官 一第四師團 大坂山澤司令官

一第五師團 野津司令官 一第六師團 駐在東京

